

修士学位論文等要旨  
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis	専攻名 / Department	工学専攻
	分野名 / Division	水環境・土木工学分野
	学籍番号 / Student ID	16W3013J
	氏名 / Name	田辺 英文
論文等題目 / Title	野沢温泉における文化資源を活用した観光産業に関する研究	
論文等要旨 (1,000 字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)	<p>近年、地域づくりの新しい考え方として観光による地域振興を目指す「観光まちづくり」の必要性が叫ばれている。観光まちづくりは地域が主体となって、自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を振興し、活力あふれるまちを実現するための活動である。</p> <p>一方、日本における観光客の意識や行動様式は、バブル経済の崩壊以前にみられたものとは大きく変化している。当時は団体客が中心であったの対し、現在では個人客が中心となり、量的満足感より提供されるサービスの質に重点が置かれ、観光地の雰囲気や地域の持つ魅力への関心が高まっている。温泉を観光資源とする地域も、団体客を大量に収容することで発展した観光地の一つであり、大規模な温泉地の出現とバブル経済の崩壊によって廃れていき、現在では方向性を見失っている。しかし、古くから湯治場として機能していた地域には、温泉資源が人々の生活や生業に作用し、土地特有の魅力を有している地域も数多く存在する。その地域について深く理解し、その地域のアイデンティティを高め、その地域の特性を発揮することが出来れば、温泉観光地として再生することが可能である。</p> <p>本研究では、長野県下高井郡野沢温泉村の温泉街を対象に、文化的景観の観点から資料調査や現地調査を行い、対象地域の生活や生業について把握するとともに、それらと結び付いた文化的要素を抽出した。そのなかで、野沢温泉の生活や生業は、その地域特有の風土を活用した観光産業と深く結びついていることが明らかとなった。また、GIS や Space Syntax 理論に基づく空間構造分析及び統計データを用いて、野沢温泉における観光産業の実態について解析した結果、地域資源に頼った観光産業を展開していることが明らかとなった。これは、近年の観光客の需要の変化に対応できておらず、さらに景気の影響を受けやすいという性質を孕んでいる。さらに、観光産業に携わる事業者や法人、地域資源を守る自治組織や地方自治体を対象にヒアリング調査を行い、野沢温泉の観光産業の現状や展望について意識の把握を行った。以上の結果、外国人観光客の増加により景気が回復に向かっているが、それに伴って外国人経営者の増加や外国人による土地買収が行われるようになり、文化の喪失が懸念されていることが明らかとなった。野沢温泉の今後の展望として、文化資源の保存及び活用を行い、経済不況に強い観光まちづくりを進めることが必要であると考えられる。</p>	